

えん どう まもる

# 遠藤守レポート

都議会公明党: 新宿区西新宿 2-8-1 TEL: 5320-7250 / FAX: 5388-1787 <http://endomamoru.com> お気軽にご意見・ご要望をお寄せください。

## がん、周産期医療の「現場」へ

10月～11月の2か月、遠藤守は、平成19年度決算審議や、平成21年度予算編成に向けたヒアリング、さらに、第4回定例会の準備など多忙な日々を送りました。

今号では、こうした活動の中で、特に印象に残った出来事をまとめました。

### ●子どもの時から、がんを正しく知ろう●

東京都がん対策推進協議会の委員を務める、中川恵一・東大病院放射線科准教授の特別講演が8日、国立市で開かれ視察しました

**【写真】**。がんの講演会といえど大人が対象と思われそうですが、この日は、市立国立第一中学校の全校生徒が対象。中川先生はかねてから、国民の2人にひとりががんに罹る現在、学校（特に義務教育）でのがん教育が喫緊の課題と主張。こうした持論を自ら実践するため、母校の高校を手始めに特別授業を実施し、この日が公立で初の試みとなりました。



特別講演には浜四津・党代表  
行ら党がん対策PTも訪れた

都立学校でのがん教育について遠藤守は、3月の予算特別委員会で「都として、将来、都立学校での実施を視野に入れ、まずは教職員を対象に、がんに関する正確な知識を得るための研修を実施すべき」と提案しています。

なお、これに先立つ5日、遠藤守は、都におけるがん対策の現状を見るため、武蔵野赤十字病院（武蔵野市）と都立駒込病院（文京区）を訪問。今後の緩和ケアの在り方を中心に両病院首脳と意見交換しました。

### ●文化財めぐり縦割り行政に異論アリ●

新たに所属となった文教委員会の質疑が13日行われ、初質問に立ちました。

テーマは文化財保護行政。この中で遠藤守は、現在の文化財保護行政は、教育委員会、生活文化スポーツ局など複数の局が担い、効率的ではないことから、生活文化スポーツ局が総合的にマネジメントすべき、と提案しました。これに対し都側は、現体制を「是」と答えていましたが、上記のような縦割り行政には無駄が多く、大いに「異論アリ」です。

### ●危機打開のカギ握る「助産師」●

都立墨東病院を舞台とした妊産婦の死亡事故を受け、20日、都内で開業する助産師の代表と勉強会を開きました。

説明では、妊婦が最も心掛けなければならないことは、早寝早起き・体を冷やさないなど、「自然の摂理」に基づく生活であり、その実践が正常出産を約束する。また、助産師は母子の健康にとどまらず、家庭環境や妊婦の両親の既往症など「妊婦の背景」にまで目配りする。多忙な医師に代わって助産師をもっと活用することが、妊婦と産科医双方にとってメリットがある、などと述べていました。